

令和8年産 美里地区の大豆情報第3号

【中耕・培土、病虫害対策編】

宮城県美里農業改良普及センター

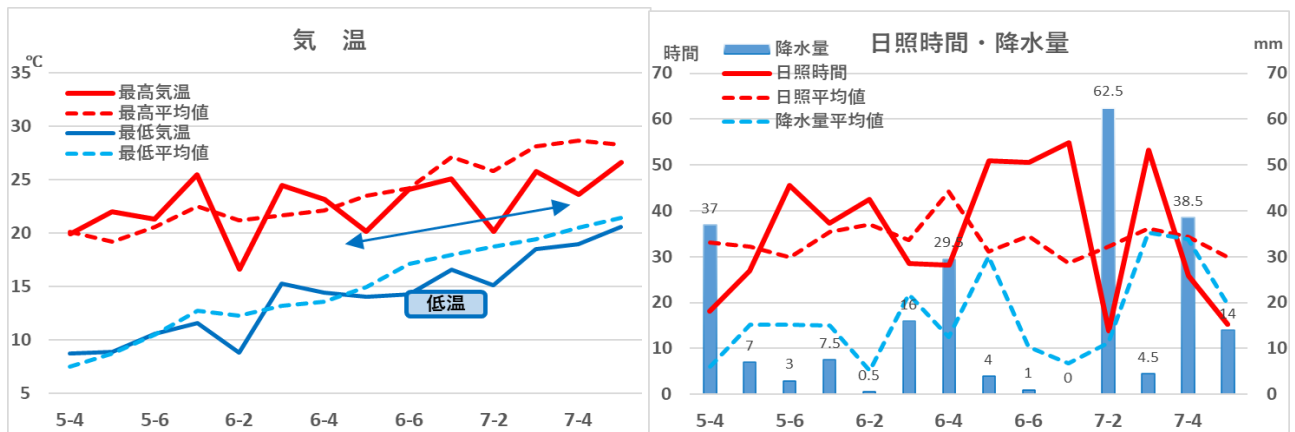
令和8年7月31日

TEL:0229-32-3115

FAX:0229-32-2225

<https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>

1 気象経過及び生育状況（鹿島台アメダスより）



6月中旬は高気圧に覆われ晴れる日が多くなりましたが、上旬と下旬は前線の影響等で雨の日が多く、21日には大雨となりました。7月は過去5年の気温に比べ低い日が多く、曇りの日が多くなりました。また、12日、25日には大雨となり、その後もぐずついた天候となりました。

2 生育状況

生育調査結果（調査日：7月23日）

品 種	調査地点	区 分	播種日	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)
ミヤギシロメ	美里町青生	本年値	6/18	28.3	8.1	0.1
		前年値	6/20	40.9	9.3	0.3
		前年差	△ 2	△12.5	△1.2	△0.2
すすみのり	大崎市田尻大沢	本年値	6/12	17.3	6.8	0.3
		前年値	6/10	39.0	11.1	2.2
		前年差	2	△21.7	△4.8	△1.9
タチナガハ (晩播)	大崎市鹿島台木間塚	本年値	7/8	9.1	2.7	—
		前年値※	7/13	7.8	2.5	—
		前年差	△ 5	1.3	△0.2	—

※：令和7年は7月25日に調査を実施。

【標播】

6月中に播種したほ場では、播種直後の6月21日の降雨により浸冠水し、出芽不良となるほ場が多く、欠株が発生しています。また、この降雨の影響で播種が遅れたほ場がありました。さらに、7月の2回の大雨で6月に続き浸水するほ場もありました。これらの降雨の影響でほ場条件が悪く、中耕培土が遅れました。現在の生育は降雨等天候の影響を受け、全体的に生育は遅れている状況となっています。

【麦後晩播】

播種直後の7月12日の降雨により出芽不良となり、欠株の発生したほ場が見受けられます。

3 今後の管理

(1) 中耕・培土

本年は6月、7月の降雨の影響で、発芽不良による欠株や生育の遅れているほ場が多くなっています。湿害は根粒菌にも影響を与えますので、ほ場条件が整えば速やかに2回目の中耕培土を行いましょう。

○中耕培土により不定根が発生し、生育促進、増収、倒伏防止、土壤通気性・排水性の改善、除草等に効果があります。

○遅い時期の中耕・培土は、主茎や分枝の損傷、断根し生育に支障を来します。開花の10日前までには終わるようにしましょう。

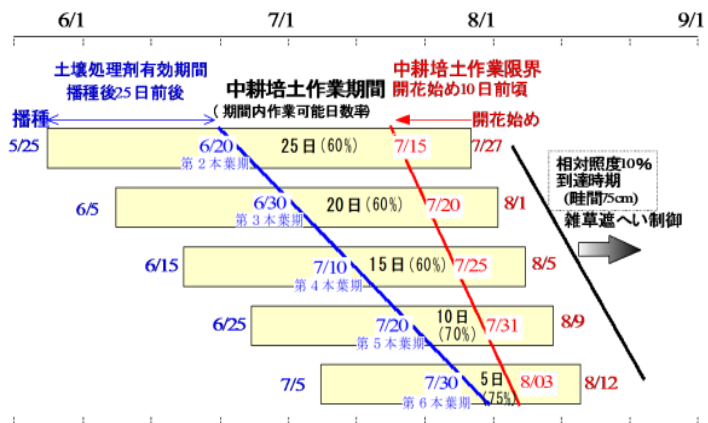


図 中耕培土作業可能期間設定の目安

(みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針 より)

(2) 追肥 開花期から幼莢期の窒素養分吸収を補いましょう

○追肥は乾物生産が旺盛となる「開花期～幼莢期」の窒素供給を目的として行います。

○ほ場条件を考慮し実施しましょう。実施する場合は根粒菌の活動を抑制しにくい被覆肥料（40日タイプ、窒素成分で5kg/10a）を使った最終培土期（晩播栽培は8月上旬（本葉5～6葉期））に行いましょう。

(3) 大雨時の湿害対策～排水状況を確認し、局地的な大雨等に備えましょう～

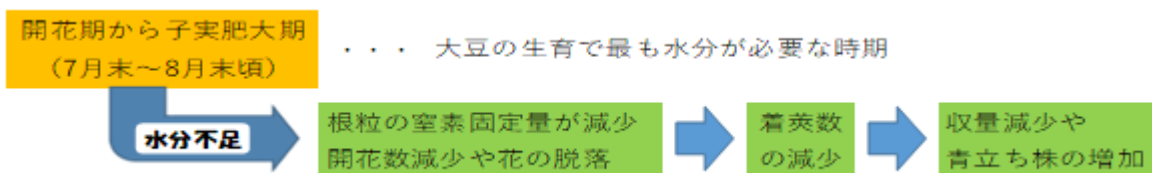
6月、7月に大雨が降り浸水したほ場が各地で見られました。

台風や局地的な大雨に備え、雨が降る前に対策をしっかりとることが重要となります。

- ① 播種前に施工した明渠が排水路につながっていることを確認する。
- ② 排水路に雑草や土砂がたまっていないことを確認する。
- ③ 浸水した場合で排水路の水位がほ場水位より低い場合は、畦畔を切って速やかに排水を行う。

(4) 乾燥対策

開花期までは排水対策に重点を置いて生育量を確保しますが、梅雨明けに伴い高温乾燥が続く、大豆の葉が裏返るようなときは水不足のサインとなります。降雨が期待できないときは暗きょ栓を閉じ水分保持に努めてください。



(5)病害虫対策

【主な病害虫】

◆ツメクサガ



ツメクサガ成虫



ツメクサガ幼虫

◆オオタバコガ



オオタバコガ成虫



オオタバコガ幼虫

突発的に多発し葉や莢を食害します。発生密度は開花始期ごろにピークを迎え、ピーク時の発生密度は播種時期が遅いほど高くなる傾向にあります（図参照）。発生種を確認の上、幼虫の葉齢が進むと薬剤の効果が低下するため、散布時期を逸しないように作業を行いましょう。

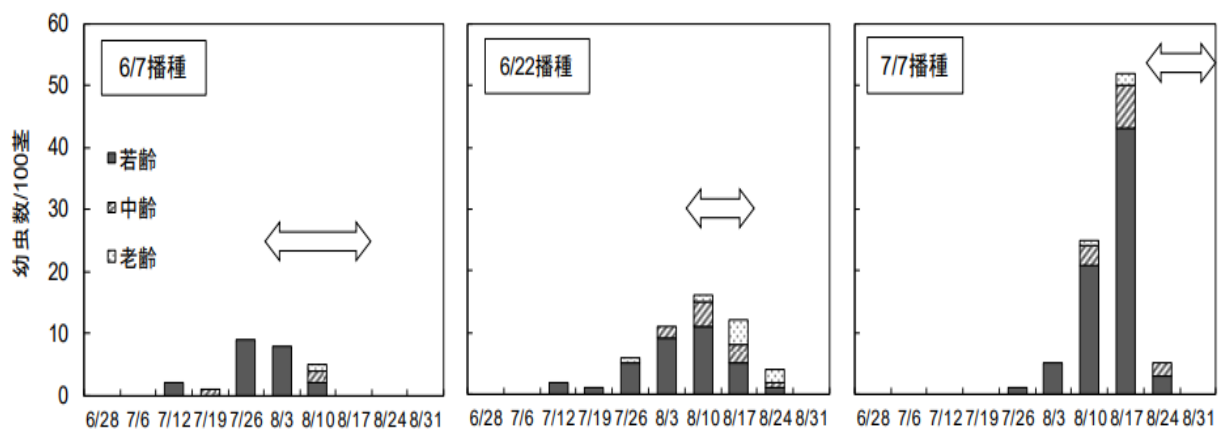


図 播種時期が異なるダイズにおけるタバコガ類幼虫の発生消長(品種：ミヤギシロメ)

◆サヤムシガ類



ダイズサヤムシガ幼虫 侵入された茎とつづられた展開葉
写真出典：みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針

◆マメシンクイガ

連作ほ場で多発します。幼虫が子実の縫合線に沿って食害します。8月末～9月はじめに1回目の防除、その7～10日後に2回目の防除を行いましょう。日長に反応して休眠覚醒するため発生時期の年次変動は少ない傾向があります。

◆フタスジヒメハムシ

連作ほ場で多くなります。子実に黒色の斑点が生じるほか、大豆の生育期間中に葉を食害（円孔状）します。若莢の表面を舐め取るような食害痕が特徴で、莢の食害部分から雑菌が侵入して被害粒が生じます。

◆ダイズシストセンチュウ

播種2か月後頃に根に寄生しているのを確認（白～淡黄色で約0.6mmのレモン型の雌成虫）できます。寄生されると、葉が黄化して茎葉が生育不良となり、線虫の密度が高まるほど症状も著しくなります。作業機械や長靴などに付着してほ場間を移動するので、発生ほ場を確認した場合は注意が必要です。根絶することは難しく、大豆作付前にクリムゾンクローバーなどの緑肥作物の栽培や田畑輪換など複合的な対策で密度を下げる対策が必要となります。

◆紫斑病

タンレイでは特に注意が必要です。成熟期の平均気温が $18\pm 3^{\circ}\text{C}$ で、降雨が多いと発生が多くなります。開花期後20～40日に1～2回防除（同一剤を使用しない）しましょう。

農作業中の熱中症を予防しましょう！！

○暑さを避ける

～高温時の作業は極力避け、日陰や風通しの良い場所で作業～

○こまめな休息と水分補給

～のどの渇きを感じる前に水分、塩分補給～

○単独作業は避ける

～複数名で作業を行う。時間を決め連絡を取り合う～

○熱中症対策アイテムの活用

～帽子や吸湿速乾性衣類の着用。空調服や送風機の活用～

◇◇◇農薬危害防止運動実施中（6月1日～8月31日）◇◇◇